

「綱渡り」の畜産懸命に

にいがた
票流記
09総選挙

最北の村から⑤

山形県境に近い中浜集落。日本海に沿って国道7号を進むと、「うみたてたまご直売」の看板が見えてくる。

富樫直樹さん(47)の養鶏場だ。2500羽が放し飼いにされ、鶏舎を自由に動き回っている。

「臭くないでしょ。体質改善された鶏はフンのおいもしない。おいしい卵が産まれるんです」と教えてくれた。以前は狭いケージで飼っていたが、付加価値をつけたいとこれからは生き残れない。試行錯誤の末に始めたのが、放し飼いだ。素王卵などのブランドでインターネット販売し、一部をレストランや菓子店に出す。

26年勤めた役場をやめ、家業を継いだのは4年前。今では旧山北町で畜産はこた

「報われない時代」

け。豚や牛を飼う人もいなくも安い。その上、飼料の多くなった。きつい。休みがない。単価

い。米国でバブル経済が始

まると、価格はたちまち高騰。やめる人が相次いだ。「自分たちの力ではどうしようもない。日本の畜産は危うい。綱渡りもいところだ」。国の無策につい愚痴も出る。

中浜で製塩業を営む富樫秀一さん(34)は、真剣に投票していた時期もある。が、今は気が重い。

テレビに映る政治家たちは、足の引く張り合いをしているとしか見えない。政権なんて何覚でもいい。目標に向かって結実して進んでほしいと思う。

「おれたちは生きるのに精いっぱいだもの。先頭の人を国をよくしてくれないと、底辺の人は一生苦しむ」

毎年、山北中学の体験学習を受け入れてきた。塩づくりの感想を聞くと、生徒に「かっこいい」と言われた。仕事に誇りがあるだけに、うれしかった。

秀一さんに尋ねてみた。政治に何を望みますか？

「今は一生懸命やっている人ほど報われない時代。望めるものなら、みんなを豊かにしてほしいな」

次は中越沖地震の被災地
・刈羽村を訪ねます



放し飼いの鶏に囲まれる富樫直樹さん＝旧山北町の中浜集落